

## 平成 29 年度第 2 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 平成 30 年 2 月 21 日（水）午前 10 時～12 時
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこゝふる 大会議室
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 12 名
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 28 名
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 2 人

（午後 3 時 開会）

### 1 開会（進行：コミュニティ推進課長）

### 2 挨拶（市民部長）

### 3 意見交換等

#### （1）平成 29 年度コミュニティ施策の取り組み状況について

（事務局）資料 1～2 により説明

（委員長）市全体の平成 29 年度の取組状況、30 年度の予定、地域ごとのご説明をいただいた。地域それぞれが取組を進められており、進んでいく一方で課題も明らかになっているように感じられるが、委員の皆様から質問や忌憚のないご意見等をお願いしたい。

（F 委員）地域の人材育成について、とても重要と考えている。人材育成に必要な支援として、来年度「東北公益大学の地域共創コーディネーター養成講座」の受講料の補助をしていくという話があった。今年度、私自身も学区の人材育成の一環で、この講座を受講させていただき、ワークショップの進め方の知識を得ることができ、学んだことを地域に還元していこうという気持ちになっている。様々な場所でワークショップが必要とされ、開催されている中で、地域の中にファシリテーターの知識やスキルを持っている人がいるかないかでは話し合いの進めやすさが違ってくると思う。また、そういった人が地域にいることにより、今まで受け身だった人が多かったのに対し、意欲を持った人が増えてくるのではないかと考える。大学で学ぶことは、ハードルが高いと思う人がいるが、学ぶことにより自信が付き、意欲も湧いてくるため、皆さんも補助制度等を上手く活用していただき人材育成を図っていただきたい。

市でもコミュニティセンター等職員を対象にファシリテーションの研修を実施していた

が、どちらかという講師の先生の話を書くというような内容であった。これからもファシリテーション研修を継続していただき、参加者がファシリテーターを実践する一歩進んだ内容にしていくことで、より地域に還元されていくものとする。

また、地域共創コーディネーター養成講座を受講した方が他の学区のワークショップの運営時に相互に協力が出来れば、受講者のいない学区にもファシリテーターの重要性を理解してもらうことにつながる。お互いの連携が重要であるとする。

(委員長) ファシリテーターとは、進行役、もしくは、話し合いの場でいろいろな方の発言を引き出す役割を持った人のことであり、F委員にも研修を受けていただいた。地域共創コーディネーター養成講座は2年間で55名が修了しており、庄内全域及び県内からもいらっしゃっているが、約半数が行政職員であり、コミュニティ推進課含む鶴岡市職員からも多く修了生を輩出している。早速、先日の市総合計画策定に係る市民ワークショップでも修了生にファシリテーターとして参加いただいたところであるが、地域内外の横のつながりの醸成、仲間づくりにも活用できるのではないかと考える。ほかに意見等あればお伺いしたい。

(C委員)

地域でワークショップ等の様々な会議が開催されていると資料にあるが、これらに参加されている方の年代についてお伺いしたい。

(事務局)

加茂地区については、加茂地域グランドデザイン検討委員会を立ち上げており、委員は、地区内の会長だけでなく若い方々も選出していただくようお願いしている。また、地区内で活動している各団体からも委員として入っていただいております、年齢層はおおよそ30～70代で構成されている。委員の人数は30名程度である。

(委員長) 温海地域では集落振興ビジョン策定に集落支援員や市職員が関わり、地域活性化懇談会も開催しているようだが、参加者の年齢構成等の情報を頂きたい。

(幹事：温海庁舎総務企画課長)

これまで11の集落で集落活性化ビジョンを策定してきたが、その組織づくりはそれぞれの集落で全く違う。自治会役員が中心となって進めたり、検討委員会に若い年代を集めて策定したり、詳細までは把握していないが、どの集落においても10回前後の検討を重ねながら練り上げてきたものと思われる。

また、越沢集落については、全く行政の手を借りずに、自分たちの力だけでビジョンを策定しており、ひとつの成果と考えている。

(委員長)

誰が集まってどういう形で話し合いを重ねるか自体、地域ごとに特性があり、戦略があるところ、人材育成につながっている地域もあれば、まずは役員中心で行っている地域もあるのではと思う。

(A委員)

この2年間で感じたことだが、当委員会はコミュニティに精通している方々が集まってかなりレベルの高い話をしている。しかし、自治会等の実際に事業を行う現場ではワークショップやファシリテーターの意味を知るところから始めなければならない。そのような中、地区公民館から移行した地域活動センターでは、今まで公民館でやってきた生涯学習を行うだけで精一杯との声も出ている。生涯学習事業によって地域づくりを行うことは可能であり、改めて事業を増やすには人も財政も増加する必要があるため、厳しいとのことである。また、なぜ「地域ビジョン」が必要なのかといった声も多く聞かれる。ビジョン策定にあたってはその必要性などを勘案しながら取り組んでいくが、非常に時間のかかる作業であり、それに長期計画を結び付けて年度ごとに消化していくには相当な神経を使わなければならない。生涯学習は以前より行っていたためスムーズに入ることができるが、新たな事業となると精神力を3倍も4倍も使わなくてはならず、なかなかついてこれないのが実情である。コミュニティ推進計画も3年目に入るため、住民の意識を高め、全体的な底上げを図る施策が必要と思う。それがワークショップであると言われればそれまでだが、現状ではその段階に到達できていない状況もある。住民主導でやらなければならないのは十分承知しているが、地区担当職員も自ら積極的に地域に関わっていただきたいと強く感じている。

(委員長)

具体的にご提案をいただいた。先ほどのF委員からは、各地域の中で核となる人、物事を進めていくためのリーダーをどう育成していくか、広域の横の連携が必要、また学びの場の必要性、A委員からは、ビジョン策定し進めていても、また深い悩みがあり、どの地域も同じような悩みを抱えている中で、全体的な底上げが必要とご提案いただいた。支援が必要な人も含め、一人ひとりの意識をどのように変えていくか、行政では地区担当職員が様々な研修等を受けていると思うが、そこからさらに地域に踏み込んでほしいという意見をいただいた。

(J委員)

藤島・羽黒・朝日地域においては自治振興会が出来てからまだ何年も経っておらず、今までは体制づくりをしてきて、これからというところだと考える。私も各地域の地域福祉委員会で自治振興会の会長や事務局長とお会いする機会があり、今までの生涯学習だけで

なく福祉や防災について、さらに進めていただきたいという思いはあるが、これまでの生涯学習事業がそのまま残っており、忙しすぎて福祉にまで手を伸ばせないというお話を伺った。行政としても目的があって作ってきた組織なので、次のステップとして組織にどういったものを求めていくか、ある程度伝えていった方が自治振興会としてもやりやすいのではないかと思う。また、各地域でも何十年と取り組んできた地区公民館の事業を検証し、優先順位をつけた上で事業を整理しなければ、現状の忙しさは変えられないのではないかということをお伝えしたことがあるが、なかなか踏み出せないというお話であった。そのため、振興会を作る時と同じように、次の段階についても行政主導である程度動かすことも必要なのではないかと考える。

資料2のQ2の部分に二学区の学区内組織再編の記載があったが、一学区と六学区がそのような動きをしていたことを受けて、二学区も再編を検討したもの。他にも来年度から再編しようという動きが出ている。また、地区社協の方々とお話をすると、担い手不足の問題解決や防災・福祉を充実するにあたって組織再編を考えている、または興味を持っているという地区が私の知る限りでは3地区ほどあった。今後、鶴岡地域の郊外地についても組織再編が進んでいくのではないかと考えられるため、何を目指していくのかを福祉分野・コミュニティ分野等が一体となって提案していてもいいのではないかと感じている。

(H委員)

櫛引公民館が今年の4月1日から生涯学習センターとして指定管理の体制に切り替わる。私自身も区長会として振興会に関わる中で様々な相談を理事としているが、地域づくりにどう生涯学習センターが貢献するかという部分が重要になってくると考える。コミュニティセンターと同じように福祉・防災・生涯学習あるいは教育を柱に事業を行っていくことで検討しているが、それには人材育成が必要不可欠である。先ほどから様々な意見が出ているが、地域のリーダーとなる人材をどうやって育成していくかが地域ビジョン策定にとって大きな課題となっている中、地区担当職員制度は地域と行政が一体となって一つの地域づくりをしていくという点では非常に重要であると考えられる。資料を見ると住民主体・地域主体という言葉が出るが、そのためには、やはり地域の人材をどう育成していくか、そこに行政の支援が必要と考える。地域と密接に関わっている地区担当職員が如何に地域を知りながら、人材育成のためのやりとりをするかがポイントであると述べたい。

そこで質問だが、地区担当職員制度では地域の現状と課題を把握しながら進めているという報告があったが、それをまとめたものは地域に還元しているのか。また、様々な地区で地域ビジョンができているため、底上げのためにもそれらを冊子にまとめて共有するといった取組も必要ではないかと思うが、市ではどのように考えているか。最後に、地区担当職員制度を行ってきた中での課題、改善点、今後のあり方など、どれほど整理されているかについてお聞きしたい。

(コミュニティ推進課長)

1点目について、地区担当職員制度は平成25年度から始まって今年で5年になり、徐々に広がりを見せてきているが、現時点では満足いくものにはなっていない。受け入れていただいている地域の受け止め方も様々あり、地域づくりが進んでいる地域では地区担当職員も地域づくりに参加しており、意見を交わし合っている。その反面、受け入れ先から疑問をいただいている地区もあることから、今後の活動をどう進めていくかが課題になっていくと考える。

(幹事：地域振興課長)

2点目についてお答えする。当課は、地域庁舎の総務企画課と連携して過疎対策に取り組んでいる。先ほど温海地域からも紹介があったが、集落対策に取り組むモデル地区を募集し、集落ビジョンを作った上で、3年間継続してそのビジョンに基づく実践活動を支援してきたが、平成28年度で一区切りついた。市全体で16地区が取り組んだと記憶しているが、その中から特徴的で参考になる事例を8つほどピックアップし冊子にしている最中である。それがまもなく完成するので、全集落に新年度早々にお配りできると思う。冊子にはビジョン策定の手順、活動の事例、まちづくりに使える支援制度、今後重要となる地域づくりの視点等が記載されているので、配布された際には是非参考にさせていただきたい。

(コミュニティ推進課長)

3点目の地区担当職員制度の課題整理についてだが、市役所の内部では各年度の活動状況をまとめた上で課題と対応等について共有する会議を行っている。地域の皆様にそのままお返しするといったことは行っていないが、必要であれば関わりの中でお話ししていきたいと思っている。

(委員長)

地区担当職員制度については、委員会でも各地区のことも含めて可能な範囲で情報共有して行ければと思う。

## (2) 事例発表

新海町町内会 会長 畑山 孝一 氏、三瀬地区自治会 事務局長 竹内秀一 氏

(委員長)

ありがとうございました。委員の皆さんからご質問または感想などお願いしたい。

(A委員)

(新海町畑山会長の発表に対して) 発表資料2ページの③に隣組の規模を拡大したとあるが、規模を拡大すると大変な部分もあると思うが、災害対応や集金の仕組みについてお聞かせ願いたい。

(畑山会長)

資料2ページの③隣組の規模拡大について、説明を加えると、隣組の数を43から16に減らし、これまでの43の隣組を班として残し、複数の班を隣組がまとめることにした。回覧板や集金は班で行ったのちに隣組長へ、隣組長が集金日に町内会長へ届けるという形にした。これまでは、43の隣組長が町内会長へという仕組みを43の班を16の隣組長が取りまとめ、町内会長へという仕組みに変えた。旧体制では、集金の際に高齢者から町内会長へ届けるのは遠いなどと言われていたが、現在の仕組みに変えたことでそれらの問題は解消している。

また、隣組長を2年任期にし、町内会のことをある程度理解したうえで、班の指導をしてもらうことも考えた。

(委員長)

どうもありがとうございました。町内会改革の取組の知恵や工夫を他の同じような課題を持っているところと情報共有出来れば良いと思う。三瀬の地域ビジョンは、キャッチコピー作りに向かうということで、とても良い取組と思う。丁寧により多くの方の色々な声を集めてキャッチコピーを作っていただきたい。(3)その他について、委員から何かご発言、情報共有などあるか。それでは、意見交換等を終わらせていただき、事務局にお返しする。

(コミュニティ推進課長)

委員長、ありがとうございました。委員の皆様にも様々なご意見をいただき感謝申し上げます。また、事例発表いただきましたお二方も誠にありがとうございました。「4.その他」で皆様からお知らせ等ございましたらお願いします。

今年度の委員会は、終了となりますが、皆様には今年度から2年の任期でお願いしているの、来年度も引き続きよろしく申し上げます。

なお、来年度は、2回ほど開催を予定しており、地域コミュニティ推進計画の進捗状況についてのご報告や本市のコミュニティ施策について引き続きご意見をいただきたく改めてご案内いたします。

それでは、以上をもちまして、第2回地域コミュニティ活性化推進委員会を閉会とさせていただきます。本日は、お忙しいところ誠にありがとうございました。